

## 株式会社オプトラン

### 2021年12月期第2四半期決算説明会（機関投資家・アナリスト向け）QA サマリー

Q1：新型装置の受注が増えているが、ALDはどれくらいか？

A1：2021年第2四半期累計でALDの売上は約7%、受注は約13%であり、新型装置の売上・受注の伸びを牽引している。

参考：2021年第2四半期累計の新型装置売上高・25%、新型装置受注高・39%

Q2：ALDの受注は、ミニLED用途であると思うが、第3四半期以降それらの需要は増えてくるのか？

A2：ALDは、カメラレンズ、ミニLEDやAR/MRで利用されることが考えられる。現時点の状況では、ミニLEDの量産の可能性もあり、下半期の受注は期待できるのではないかと。

Q3：半導体不足等により受注に影響が出ているが、受注回復の見通しは？

A3：当社は、2021年度計画では、受注額は上半期ウエイトが高い見通しでスタートしました。実際は、新型コロナウイルス感染拡大が長期化したことや世界的な半導体不足により、顧客の設備投資先延ばしの影響があり、当社への発注が、当初予定していた上半期からシフトし、下半期から2022年度に先延ばしされる可能性が高くなっています。

北米スマートフォンメーカーからの受注も、2021年度上半期は少なく、当初想定していたものより下半期も規模が小さくなり、本格的な受注は2022年度に持ち越される可能性が高い。最近では、北米スマートフォンメーカーのベンダー経由のビジネスも増えており、それらの受注は、年内の受注の可能性はある。

ただし、水平スパッタ装置やALD装置等の新型装置受注比率は、高くなっており、今後とも牽引して行く。

Q4：半導体不足はどのセクターで起きているのか？

A4：特にスマートフォンメーカーや監視カメラメーカーで影響が出ている。これらの分野の顧客の稼働率は低く、下半期、稼働率がどれくらい改善するか注視している。

Q5：上半期の受注と売上の社内計画と比べてどうだったか？

A5：社内計画と比べると、売上は、若干の下振れでした。受注は、上半期ウエイトが高い計画をたてたため、顧客の設備投資先延ばしの影響により下回りました。

Q6：ドライエッチング装置は、どのような分野で使われるのか？

A6：スマートフォンやPCのタッチパネルやディスプレイ、車載のカバーガラス等です。

Q7：上半期の利益率は良かったが、下半期の利益の見通しは？

A7：新型装置の利益への貢献は今後も続くと考えられる。他方、素材価格値上がり、当社の調達コストにも影響している。当社の対応の一例として、当社3拠点の中で一番安価な拠点での部材購入、購入先業者選定見直しによる安価購買を進めている。

Q8：AR/MRでどのような装置が利用されるか？

A8：当社の蒸着装置、スパッタ装置、ALD、エッチング装置が利用される可能性がある。

以上